自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170501993		
法人名	有限会社ライフアート		
事業所名	グループホーム福寿荘Ⅱ		
所在地	札幌市白石区北郷4条12丁目3-35		
自己評価作成日	平成25年5月22日	評価結果市町村受理日	平成25年7月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0170501993-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・医療連携をとりながら、最期までホームで生活できるようターミナルケアを実践し、又、必要に応じて専門医に受診し、安心・安全に生活できるよう、条件を整備している。
・地域の方々と日常的に交流し、緊急災害時に支援してもらえる関係、体制作りができている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成25年6月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は閑静な住宅街に立地し、2階建の趣を凝らした建物で庭には季節の花が咲いている。法人は近隣に複数グループホームを経営し、それぞれの役割を担い人事や研修で協力関係にある。当事業所は看護師を配置し医療連携をとりながら本人や家族の希望を受けとめ、ターミナルケアを実践しているのが特徴である。職員は福祉の専門知識を習得しており、内外の研修を受け常に資質を高めている。接遇態度についてはアンケート結果が示すように家族の厚い信頼を得ている。家族とは家族会を開催し親睦を図ると共に運営内容を報告し、又家族ノートの交換で個々の意向を汲み取って対応している。運営推進会議は定例に開催し運営や行事、サービス内容について検討し会議内容は運営に反映させている。地域とは防災対策、地域認知症研究、「子供110番」の場所提供等で双方向での協力関係ができている。一人ひとりが大切にされ、支え合いながら安心して暮らすことのできる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人を大切に・支えあう心・安心して暮らせる社会づくりを法人理念とし、一人一人がその人らしく生活できることを目標に日々取り組んでいる。又、理念を常に確認できる状況にしている。	法人理念のもと事業所の目的、運営方針を定め職員は理念を共有して実践している。理念は室内やパンフレットに掲示し会議等で確認してサービス向上に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、町内会行事にできる限り参加し、又、散歩時通勤時など、隣近所の方々に積極的に挨拶するなど、地域の一員としての意識を高め、気軽に交流するよう努めている。地域の方からも、ホーム周辺の整備をしていただく等、積極的に支えられている。	町内会行事の夏祭りや防災運動会に参加している。「子供110番」ではステッカー添付に協力し、七夕祭り、子供神輿などで近所の子供達との交流がみられる。除雪、清掃では近隣住民との相互協力が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回実施している運営推進会議で、町内会の方々とホームでの取り組みやケアの実践、又、地域の方々の状況などを話し合っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常的な取り組みや評価への取り組み改善など、その状況に関して報告し、話し合いながら質の向上を目指す機会としている。又、避難訓練へ参加いただき、緊急時の協力体制を作っている	会議は定例に開催し、包括支援センター職員、町内会、家族の参加がある。運営、行事、利用者対応、避難訓練等多様な報告と協議を重ねてサービスの質の向上を図っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のグループホーム管理者会議や研修、在宅ケア連絡会に積極的に参加し、連携を図れるように努めている	行政担当課職員とは日頃から協力関係を築いている。管理者会議、研修、在宅ケア連絡会等の積極的な参加で業務水準の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、センサーで対応し、チャイムをつけ自由な出入りを行い、出入りの際には必ず確認している	身体拘束についてマニュアルを整備し、内外の研修に参加し、職員の意識の共有を図っている。玄関は日中施錠せず、安全を確認をしながら自由な雰囲気を大切にし、身体拘束のないケアを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社外研修への積極的参加及び、通達を確認しながら職員への周知を行っている。又、研修内容を伝達し意識付けを行い、社内研修で学習し、防止の徹底を図っている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解ができるよう、社内及び外部の研修で学ぶ機会を積極的に持ち、入居者の状況に適切に対応できるよう制度を活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日常的にも疑問や不安があれば、その理解や解消に努め、入院や退去などその都度話し合いを行い、理解・納得を得られるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の定期的開催で、ご家族より出された意見をスタッフに周知し、推進会議で外部の方にもお知らせしている。又、家族連絡ノートを活用し気軽に意見や要望を寄せてもらっている。又、入居者の状態から意思や意向を捉えることは難しいが、表情・目の動きなど細かな観察で想いをしっかり受け止め、支援を行っている	日頃の面談や「家族ノート」の交換で家族の意見や要望を把握している。定期的な家族会の開催、運営推進会議の参加で運営やサービス内容について説明し協議検討し、意見が反映されるよう努めている。苦情受付担当者を明示し、外部への苦情受付機関を案内している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフ会議や社内研修、面談を行い、意見や提案を聞くように努め、日常的にもスタッフノートを活用している。また、日々の申し送りでも意見を聞けるようにしている。	定期的なスタッフ会議や社内研修、面談、「スタッフノート」の活用等を通して職員の意見や要望を把握し、運営に反映するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的なキャリアパス、面談、スタッフの自己改善計画書などを活用し、自分たちでやりがいなどが持てる職場環境・条件整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加を積極的に行い、研修報告や面談で、職員一人一人の力量や実際のケアを把握しOJTをすすめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の連絡会への参加や、全国組織のネットワークを築いており、相互間の研修を共同して実施し、人材の育成やケアの質の向上を図っている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から家庭訪問を行い話し合う機会を作り、また、入居される生活の場をできる限り見ていただけるように、ホームに出向いていただくことも行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上、ご家族とも十分話し合えるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたらまず、今何の支援を必要としているのかを話し合い、緊急性の有無を確認し、他サービス利用も踏まえた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者から学びを得ることは多々あり、職員はその入居者に感謝の気持ちを持ちながら接している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や職員の話も交えながら、入居者自身を中心とした関係作りに務めている。母親にカーネーション（母の日）を贈ったり、TELで話をする為に息子さんに支援してもらう事もある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が直接思いを伝えられないことが多く、家族を通じて働きかけてもらうなど支援し、一人一人の状態にあった方法を家族と相談しながら進めている。遠くにいる家族に電話をかけたり、昔の写真をみてもらったりしている。又、ホームで撮った写真はいつでも見れるように一人一人のアルバムを作成し、遠くにいる家族には手紙と一緒に写真を送っている。	家族や友人の来訪を歓迎し、事業所内で利用者と共にゆっくり寛げるよう支援している。一人ひとりのアルバムを作成し家族に生活の様子を伝え、家族との絆を深められるよう、個々に応じての思いに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の状態や周囲の環境に応じ、他者と交わったり職員が個別に対応するなど、一人で孤立することがないよう努めている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係はこれからも継続することを伝え、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけている		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどうしてほしいと感じているのか思いを受け取るよう努め、又、家族からも情報を収集し、本人の立場に立ったケアプランの立案、実践、評価を通して、思いや意向を捉える努力をしている	一人ひとりの表情や動作、日々の関わりから本人の要望を把握している。家族情報や記録を参考にし、本人の意向を尊重したケアプランを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し、これまでの生活を家族からも伺えるよう働きかけている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の利用、また日常的な申し送りや記録で、一人一人の日々の様子を、職員全員で総合的に把握するよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チーム・家族・本人(難しい場合は意向)を含めて協同で作成し、期間に応じて見直し、また本人の変化が生じたときには、その都度対応の検討・プランの修正を行っている	本人、家族、医師の意向を取り入れ、担当職員、計画作成者、職員全員が会議で検討している。定期的又は状況変化に応じ随時モニタリングを行い介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、その結果をプランの見直しにつなげていく努力をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携（協力病院との連携や専門医への受診）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防団と協同での防火訓練、訪問美容や鍼・マッサージなどのサービスの利用を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診のほか、必要に応じて往診していただき、また、希望や必要に応じて専門医への受診の援助を行っている	利用者希望のかかりつけ医との連絡、通院支援を行うと共に、提携医による月2回の往診があり、緊急時には対応できるよう医療機関との協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師がおり、日常の健康管理や助言、対応を行い支援しているとともに、協力病院との連携を日常的に行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換共有しつつ、入院中も安心して過ごせるように配慮し、支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、早い段階から、かかりつけ医、経営者、管理者と家族で、随時話し合いの場を設け、その都度方針を確認しあっている	終末期対応は家族、本人の意向を早期に伺い文書で確認している。重度化した場合、関係者は方針を確認し、医療機関と連携をとりながらターミナルケアの実施に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに沿って実施している。場面場面でケアの具体的方法や視点を確認している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域消防団と防災訓練を実施し、町内会との連携をとり、できる限り利用者も参加し具体的に行っている	年2回、消防署立会のもと夜間も想定し避難訓練を実施し、近隣住民や地元消防団の協力を得ている。スプリンクラーが設置されている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ、入浴時など他人の目に触れないよう、細心の注意を払うと共に、排泄の有無は記号化し、他者の前ではトイレ等の言葉を用いないようにし、本人のプライドを傷つけないようにしている	職員は個々の人格を尊重し接遇に配慮している。特にトイレ誘導には記号を使用する等細かな心遣いがある。個人情報記載書類の取り扱いは慎重に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべてにおいて自己決定は難しいが、表情やしぐさから気持ちを読み取ったり、どちらがいいか選択してもらう等、可能な限り本人の意思を確認しながら支援するように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて支援している。また、本人のペースを尊重しつつ、体力や状態に合わせた生活の組み立ても考え支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたり、訪問美容を利用し、一人一人がその人らしい身だしなみやオシャレができるように支援している		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みのものをメニューに取り入れ、箸やスプーンなど自ら食べられるような工夫をし、食べる楽しみが継続するように支援している。また、職員は一緒に食事している。そして、好みを把握する為、スタッフ間で情報を共有している。	献立は利用者の好みを取り入れ、食材形態、食器、スプーンに配慮し自力摂取を促している。職員も共にテーブルに着き、重度の方には個々の体調に沿い食事回数や内容を考慮し食事が楽しめるよう工夫を重ねている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量、水分量をしっかり把握し、チームで情報を共有しながら、必要なときに必要なものを、しっかり取れるよう対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態に合わせた方法で支援している（口腔ケア用ガーゼ、スポンジの使用など）。また、歯科医からケアの方法を伝達、実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄メカニズムをしっかり理解し、トイレでの排泄を支援している。また、排泄のサインを見逃さず、トイレでの排泄が集中して気持ちよくできるように、声かけも極力少なくするように努めている	利用者の動作や表情、排泄記録から個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導してトイレでの自立排泄を行っている。重度の利用者には2人で介助し安心してトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り、自分の足で歩くように支援し、飲食物に関しては、ヨーグルトやオリゴ糖を用いたり、寒天ゼリーを食べるなどし、水分量にも配慮するよう努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態を把握し、配慮しながら実施している。また、本人の意向は捉えがたいが、納得して心地よい入浴ができるよう支援している。一人一人の状況に合わせて、午前や午後と入浴時間を変えている。	本人の体調や希望に配慮しながら週2回以上の入浴ができるよう努めている。浴室環境を整備し、身体機能に沿った適切な介助で、安心して入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休めないとき、職員が添い寝をしたり、リビングで一緒に過ごしながら休息など、一人一人に合った方法や環境を把握し対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性をしっかり理解し、効能と副作用についてチームで確認し、その変化の有無をしっかり把握できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気に触れたり外を眺めたりする時間や、好みの音楽を聴くなど、暮らしの中で自然にできる支援を行っている		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や、入居者の状態に合わせて、外の空気を吸ったり風に当たることができるよう支援している。また、外出できないときにも縁側やテラスを活用し外気やお日様に当たる工夫をしている	近隣の公園へ散歩に出かけたり、庭の花や野菜の成長を楽しむ等外気に触れる機会をもつよう努めている。テラスでお茶を飲むなど個々の状態に合わせて行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を使うことはないが、本人の安心につながる支援の方法を検討している（お財布に小額のお金を入れて身の回りにおいておくだけで安心するなど）		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実際には困難であるが、家族に生活の様子や日常的な会話などを伝え支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合った花や、タペストリーで雰囲気作りに努め、絵画や適切な明かりで、安心感が持てるように工夫している。また、共有空間を温かみのある空間にする様工夫している。	廊下やリビングには絵画や季節の花が飾られている。居間にはソファーやリクライニングチェアを置き、リビングに続く和室には床の間に日本人形が置かれ居心地の良い空間となっている。採光、換気、温度、湿度は適切で騒音はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の馴染みのものを持ってきてもらい、居室内で心地よく過ごせるよう工夫している。また、居間のソファーや一人がけイスを利用し、心地よく一緒の時間を過ごせるよう工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのものを持ってきてもらい、居室内で心地よく過ごせるように配慮している。また、臥床時にも本人の好きなもの、馴染みのものが見える様に工夫している。	居室には使い慣れた家具を持ち込み、家族写真や仏壇、思い出の品を飾りその人らしい雰囲気つくりをしている。収納箇所があり、整頓され清掃も行き届き清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやイスの形や配置を工夫し、安全でかつ、自分の力を発揮して生活できるように心がけている(状態や状況に合わせて配置を換える)		